

# 目印は飼い葉桶！

伊藤 悟

学院宗教部長



クリスマスの目印はキャンドルやイルミネーションではありません。ツリーやサンタでもなく、クリスマスディナーやプレゼントでもありません。

ルカ福音書は、飼い葉桶のなかに寝ている乳飲み子がしるしであると告げます。飼い葉桶とは馬や牛など家畜の餌箱のことです。そこに乳飲み子が寝かされている。それがクリスマスの目印です。サンタもディナーもキャンドルも、イルミネーションやプレゼントも、すべてこの飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を指し示すものです。現代社会は、しばしばその原点を忘れています。忙しさや慌ただしさ、不況や戦禍にあって、クリスマスどころではないといった声も聞こえてきそうです。

最初のクリスマスが起こった時代。それは社会も人の心も暗闇にすっぽりと包まれていました。人々の間では絶え間ないいさかいや争いがあり、権力者たちは、それぞれが自分の思い通りに時代を操りたいと考え

天使は言った。「恐れるな。私は、すべての民に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町に、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、産着にくるまって飼葉桶に寝ている乳飲み子を見つける。これがあなたがたへのしるしである。」

ルカによる福音書 第2章 10-12節

色々の駆け引きがありました。また、さらに強大な権力が押し掛かって強者が弱者を食物にし、自分と異なる者は排除されていく。役に立たない者は社会の隅に追いやられる。暴力、貧困、差別、搾取、飢饉、飢餓、疫病、拷問、重税などなど。人々の上に暗黒がずっしりと垂れ込めていました。人々はそうした状況の中で、必死に計算します。どうしたら得なのか、どうしたら損をしないか、どうしたら生き延びることができるのか、自分の身を守ることができるのか、計算を始めます。

そうした状況は今日も何も変わりません。コロナ禍にあっても、戦争が起きて、不況が続く中でも、人々はどうしたらより得になるか、残念な自分にならないかを計算します。何から何まで私たちは計算しようとし、数字が飛び交い、ランキングが飛び交い、そうこうしているうちに、何のために数字をはじき出しているのかが分からなくなったりもします。

しかし、それは私たちの人生や社会を構築する上での唯一のあり方なのでしょうか。

計算や打算のない世界がある。真っ暗闇だけれど、暗黒の垂れ込める状況だけれど、その中に一つの光がある。それは神が送られた光であり、神の愛や平和はけっして計算や打算ではなかったことを示すものです。

その目印が「飼い葉桶に寝ている乳飲み子」だというのがクリスマスです。イエスの母マリアも色々に計算したかったけれど、旅の途中で急に産気づき、何の準備も整えることができませんでした。計算づくしで生きていた人たちからは排除され、宿屋の馬小屋に押し込まれるよりほかありませんでした。

闇の立ち込める時代や状況の只中にひっそりと産まれて飼い葉桶に寝かせられた乳飲み子。これが目印です。忙しさや慌ただしさや争いがあるなかこそ、クリスマスが必要とされるのです。乳飲み子は計算しません。計算や打算で自分の寝る場所を決めたりはしません。計算や打算といった観点からすると、まったく無に等しいゼロの存在。それが「あなたがたへのしるしである」。ここから平和が始まる。ここに希望の光があるというのがクリスマスのメッセージです。

その知らせを聞きつけてやってきたのは、この世の権力や計算世界とは無縁の羊飼いたちでした。この社会のしきたりやルールや方程式とは無縁の世界からやってきた外国人たちでした。この乳飲み子こそが、この飼い葉桶こそが、クリスマスに決して忘れてはいけない私たちの原点、私たちの目印です。

どうぞみなさん、クリスマスの目印とその意味に深く触れてみる今年のクリスマスにしてください。世界の人たちが皆、よいクリスマスを迎えられますように。笑顔で飼い葉桶を囲むことができますように。とくに戦禍で苦しんでいる人たちに平和の光が訪れますように。メリークリスマス！

